認知症疾患医療連携研修会 開催報告

日時：令和７年 10月 3日（金）18：00 ～19：30

会場：北見赤十字病院 北館３階 大会議室

多職種事例検討会『支援が進まない家族』

～家族機能を発揮するまでの支援～

当院にて集合形式の多職種事例検討会を開催いたしました。オホーツク管内の医療・介護・福祉に従事する関係者 32 名に参加していただきました。南部地域包括支援センターと認知症疾患医療センターが共同で事例を提供し、５グループに分かれてグループディスカッションを実施しました。

グループディスカッションではディスカッション用紙を用いて、『夫と長女・長男の思い』『各対象者に必要な情報・知るべき事・出来た事』について各グループで考えてもらいました。それぞれの職種の強みを活かして活発に意見交換が行われました。その後、各グループより検討内容を発表してもらい、全体で共有しました。

当事者や家族の思いに寄り添った支援の大切さを改めて学び、知識や社会資源の情報共有、相互の業務理解へ繋がる機会となりました。

終了後のアンケートでは、「自身の業務での支援方法を改めて振り返る機会となりました。」「各専門職の立場での気づき、視点を学ぶことができました。」等の多くの感想をいただきました。

今回の事例を通して「家族それぞれの本心を聞き取ることが大切だと感じた。」「思いを理解した関わりは大切だと改めて思いました。」「家族と個を分解したアセスメントをします。」等、それぞれの今後の業務へ繋がる学びとなりました。

また、「家族支援が難しいケースが増えている」「ご夫婦が認知症、息子が同居しており、介入が難しいケースがある」等の意見もあり、家族支援の困難さが昨年同様に課題となっているようでした。

次回の認知症疾患医療連携研修会は来年１月 23 日（金）に開催予定です。今年度最後の研修会となっております。ハイブリット形式にて「北見市における高齢者虐待の現状（仮）」をテーマに北見市介護福祉課 高齢者支援係長 豊田尚希氏を講師に招き、開催いたします。多くの関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

（認知症疾患医療センター事務局 垂石記）